

令和4年度

大江町総合教育会議 会議録

期 日：令和4年12月16日

大江町教育委員会

- | | | | |
|---|----------|---|--|
| 1 | 招集年月日 | 令和4年11月21日 | |
| 2 | 招集の場所 | 大江町中央公民館 町民ホール | |
| 3 | 開会年月日 | 令和4年12月16日 午後3時 | |
| 4 | 出席委員 | 大江町長
大江町教育委員会教育長
大江町教育委員会委員
大江町教育委員会委員
大江町教育委員会委員 | 松田清隆
清野均
山家貴代
鴨田幸恵
海野晋 |
| 5 | 会議に出席した者 | 大江町立左沢小学校校長
大江町立大江中学校校長
大江町立本郷東小学校校長
大江町立大江中学校教頭
大江町立左沢小学校教頭
大江町立藤田の丘分校教頭
大江町総務課長
大江町教育委員会教育文化課長
大江町教育委員会学校教育主幹
大江町教育委員会学校教育主査 | 建部敦
庄司雅和
鈴木智香子
奥津秀昭
田代拓
荒井かおる
五十嵐大朗
西田正広
村山一彦
高瀬こずえ |
| 6 | 協議事項 | (1) 今後の教育振興に向けて
(2) 大江町教育プランの実現に向けて | |

◎開会

○西田教育文化課長

令和4年度大江町総合教育会議の開催を告げた。また、今回校長会、教頭会からも参加をいただいているが、教育振興に向けて各般のご意見をお聞きしたいことから、合同の会議としたことを告げた。会議の主旨を議事録としてまとめ、町ホームページにより公表していくことを告げた。

◎あいさつ及び講話

○松田町長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、今後の教育振興に向けて講話をおこなった。

○清野教育長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、大江町教育プラン（第3次教育振興計画）の実現に向けて講話をおこなった。

◎情報・意見交換

○西田教育文化課長

意見交換をおこなうこととし、町長が座長となり会議を進めることを述べた。

意見交換

- 1、今後の教育振興に向けて
- 2、大江町教育プランの実現に向けて

○松田町長 昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大があり、今年も例年とは違う教育活動となりましたが、ぜひこの場でご意見を出していただき、今後の活動に活かしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

「教育振興に向けて」と「教育プランの実現に向けて」という議題が用意されていますが、まずは左沢高校について触れさせていただきたいと思っております。

今年春の入学者が基準よりも非常に少なかったため、来年度の入学者が基準を下回ると、今2クラスですが1学級減となります。その危機感の中で、大江中学校と左沢高校では、どのような連携が取れるかを考えていかなければなりません。

また、入学者確保のために教育委員会はどんなことで協力できるのか、今年は春から教育長、副町長を中心に、いろいろと手を打ってきました。

はじめに大江中学校と左沢高校の校長先生からお話を聞いたところ『近くて遠い学校同士』という表現がありました。お互いに情報共有がほとんどなされていないということがわかったのです。左沢高校ではどんな授業をしているのか、大江中学校では左沢高校をどのように見ているのか。お互いに情報交換しながらお互いを理解し合い、また、大江中学校からの入学生は1桁まで減ってしまったということもあるので、指導としてどのくらいのことができるのだろうかということと一緒に考えてきました。

また、清野教育長がこの前まで大江中学校の校長先生だったということもあり、近隣の中学校長とは面識があったため、副町長と教育長で学校訪問をしましよとのことになりました。そして西村山管内だけでなく、中山や山辺の中学校にもPRとお願い、そして実情の認識、情報交換をおこなってきました。入学者確保のために、これまでにない積極的な活動をおこなってきたのです。

私は高校生が駅から学校まで町の中を歩く姿そのものが町の活性化だと思っています。その姿が一人でも少なくなることは避けたいですし、JR左沢線の利用という面でも大きな力になると思っておりますので、ご意見を頂けたらと思っています。教育委員の中に、山家元校長先生もいらっしゃいますので、来年度に向けて私たちはどのように行動すれば、地元の左沢高校と町内の小中学校が繋がっていくのかということについて、はじめにご意見をいただきたいと思っております。

○山家委員 私も、左沢高校に在籍していた当時は同じような危機感を持っていたものから、本当にいろいろなことをやってきました。ひとつは、職場開拓ということ

で、とにかく左沢高校生は勉強もしているし素直なので、ぜひ職員として採用してくださいと様々な企業を回りました。すぐに結果に結び付いたかはわかりませんが、当時はなんとか3クラスを維持できたのかなと思っているところです。

今、町長のお話を伺っていて、やはり大江中と左沢高校は近くても遠い学校だったとのことで、ひとつの取り組みとして、できるところでお互いの学校を見てみる、あるいは本当に特徴的なことをやっているのか見てみたりする取り組みを始めたことは、私はすばらしい進歩ではないかと思っているところです。山形市内の大きな高校に行っているような刺激的なことで成長したいという子どもたちの希望もわかるのですけれども、地元の良さをもう一度見直してほしいですね。

明日、ATERA で左沢高校生が考えたパングラタンを 10 時から 14 時まで食べられますので、私も行ってみたいと思っているのですが、今の高校生は町の中に出て活躍してくれているのです。

私が住む七区では、青竹提灯をお盆に提げるのですけれども、左沢高校生が手伝いに来てくれます。そしてとても気持ちよく働いてくれるのです。

そればかりではなく、様々なお祭りや、その際の屋台の関係も含めて、町の中に出てきてくれているのです。ですから、昔と違って学習の課題などもあると思えますけれども、町の中で活動している高校生の姿を目にすることができるのはとても嬉しいことです。例えばボランティアサークル夢憧布も左沢高校と一緒にこなっていたことも含めて、もう少しお互いの交流もできていけば左沢高校の魅力も少しわかって頂けるのではないかと思います。

○松田町長 ありがとうございます。今、ATERA の活動の紹介などもありましたが、みなさん「地域おこし協力隊」という存在を聞いたことはありますよね。今、その協力隊の方から左沢高校との交流ということでお願いをして、左沢高校と地域を結ぶ役割を担ってもらっています。今ありました活動などを企画し、高校生と一緒に取り組んでいることが、今回のような結果にもつながっていると思っています。

○庄司校長 左沢高校については、現在大江中でも左沢高校のことをよく知らない保護者と生徒が多いので、どのような内容で授業が行われているのか、3年間どんなことを学べるのか知るといことが大事ではないかと思いました。そこで今回新たに、西村山地区内にある谷地高校、寒河江高校、寒河江工業高校、左沢高校の先生方から大江中学校に来ていただいて、子どもたちと保護者に学校説明会をおこなっていただいたのです。

これまでは私立高等学校が積極的に説明に来ていたのですが、今回は公立学校の説明会も実施し、私もずっと聞いていましたが、左沢高校の先生の話も上手くて非常に良かったと感じています。子ども達の反応も良くて、こんなことは学べるのですか、ここはどのようなのですかなどの質問が出されました。説明会を実施して、やっと左沢高校がこのように学べる学校なのだということがわかりつつあります。そういった意味で、まず今年はスタートラインには立てたと思っているところです。

○松田町長 ありがとうございます。町の教育委員会としては、県教委との関係で、これまではなかなか踏み込めなかったのですが、町づくりの一環としても、先ほどから申し上げているとおり左沢高校は、非常に重要なものであるという捉え方ですので、守っていかなければなりません。高校生からも町づくりに参加してもらい、共通認識を持って取り組んでいかなければならないと思います。

先ほど地域起こし協力隊の話をしました。小学校との連携の中でも、私は出来ることはあると思います。若いお兄さんお姉さんという形で小学校と何か連携できないでしょうか。先生方同士で行うのは大変なんでしょうけれども、先ほども話した、地域おこし協力隊の春山という職員がいますので、その方を窓口にして十分に出来ると思いますので、左沢高校のことを子ども達からも知ってもらうために、ぜひ活用していただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○鈴木校長 青苧復活夢見隊の村上さんが、左沢高校の探究型学習の時に青苧の学習を指導してくださっており、本郷東小学校でも青苧の学習をおこなっているのです。そのつながりで、左沢高校の生徒が本校の6年生に青苧の紙芝居をしてくれたのでした。その紙芝居を見て、本校の6年生が刺激を受け、青苧のキャラクターを作りたいとか色々な楽しいことを考えるようになりました。

私は去年、左沢高校の探究型の発表会に参加させていただいて、このようなことをしているのかと恥ずかしながら初めて知りました。知らないことがたくさんあるのだとその時すごく思って、発表会もすごく充実していて、高校生なりに色々な視点で考えているのだなと思いました。

高校生が小学校に来て青苧の発表をしてくれたりすることがあると、子どもたちも少しずつ興味を持ちますので、小学校の頃から身近な左沢高校を意識できるのではないかと思います。また、左沢高校で育てているネギや、シャインマスカットが食材として給食に提供されていたり、左沢高校で考えたメニューを小学校の給食で食べたりしていて、その時に左沢高校生が来てPRをしてくれたり、こういう思いで給食を作ったのだというお話もしてくれることもあって、そういった活動をもう少し強化していったりPRしていくと良いのではないかと思います。

○松田町長 ありがとうございます。そのような青苧を介した交流も実施していたのですね。本郷東小学校の校章も青苧ということで、ぜひ子どもたちに青苧のキャラクターを作ってもらえたら、町のPRの素材として活用させていただけるとと思いますので、ぜひ考えていただきたいと思います。

続いて、毎日お店の前を高校生が行ったり来たりしていると思いますので、鴨田委員と海野委員から意見をいただいてもよろしいですか。

○鴨田委員 左沢高校生とのつながりは、左沢駅を降りて学校まで行く時に眺めるくらいで、直接の交流などはないのですけれど、町の広報紙やインスタグラムを通じて、高校生がこんなにも頑張っているのだということはお知らせいただいております。その中で、高校生の活躍には目を見張るものがあり、とても感動しているところです。

またインスタグラムでは、町の中のことや子どもたちの給食など、色々な場面で大江町を PR してくれていることは素晴らしいと思いますが、このインスタグラムのことを知らない人がいることは残念だと思います。ですので、町報にでもインスタグラムではこのような活動を紹介しているのでぜひ見てみてください！といったお知らせがあっても良いのかなと思いました。子どもから大人までの色々な活動を紹介してくださっていて本当に良いと思いますので、いつも“いいね”を付けております。

○海野委員 今朝も除雪をしているときに、小学生が小学校のある方向に歩き、また逆方向に高校生が通学する姿を見てきました。私の子どもは左沢高校に入らず他地域の高校に行ったものですから、少し後ろめたいところもあるのですが、今の中学生は、同級生が私立を選んで推薦で早々に決まってしまうため、少し言い方は悪いのですが、受験をしなくていいという安直な考えで私立を選んでしまう傾向があるのではないのでしょうか。だから高校生のうちに本当に覚えなくてはいけないことを覚えられない生徒が多いこともあり、これからの日本は大丈夫なのかと感ずってしまうのです。推薦だけで通ってきた子どもたちは心が折れやすいように感じます。そのような中で、受験を経験しない子ども達が、どう育っていくのだろうと思います。

子どもたちは、左沢高校ではなくなぜ私立高校を選ぶのか。左沢高校は今、私立並みに入りやすいと思うのですが、なぜ選ばないのかと思った時に、インターネットで見た記事では行きたい学科がない、あるいはその先の進学については私立の場合は恵まれているので、もしかして大学に行けるかもしれない、などと考えるのではないのでしょうか。

その他、私立は教育の方針・ビジョンがきちりしているという意見がありました。左沢高校の方針・ビジョンは、どういうものなのかと聞かれた時に、残念なことに私は代弁して答えることができない。要するに、先ほど町長が言っていたように、我々が左沢高校について理解できていないことも子どもたちに影響を与えているのかなと思います。ある新聞の記事では、小中高一貫の学校で高校生が小学生の面倒を見るとか、中学生の勉強を見ているなんていう記事を見たこともあるのですが、左沢高校の生徒たちは本当に面倒見の良い生徒たちが多くです。そのようなことも可能かと思えます。企業や町だけでなく、もう少し小学生や中学生と絡められるようになると、身近な人がいるからという理由で選ぶきっかけにもなるのではないかと、今の話を聞きながら考えていたところです。

○松田町長 ありがとうございます。左沢高校の先生と話をした時も「総合学科という名称も、何を意味しているのかよく分からないのではないのでしょうか」との話が正直な意見としてありました。学校ではもちろん説明もしているし、分かりやすいパンフレットも出しているとのことですが、「普通科」「商業科」等のように分かりやすくはないかと改めて思ったのでした。先ほど、大江中学校の校長先生からあったように、保護者や子どもたちに私立高校と同じような説明会をしていただい

たことはすごく良いことだと思います。しかし、私立高校の取り組みの実態は本当にすごいそうです。毎月毎月、担当の先生が学校を訪問するようなどころもあるとのこと。私立の先生たちは学校訪問にいらっしゃるが、公立の校長先生はほとんど来ないとも聞いております。

町の教育委員会としては、左沢高校の魅力を引き出すひとつの動きとして、小・中学校を通した英語国際理解教育の延長線上に左沢高校も加えていったら良いのではないのでしょうか、英語教育をひとつの魅力に掲げた学校づくりをするのはどうでしょうかと、県の教育委員会に申し上げております。それは、逆に言ったら普通科ではなく総合学科だからカリキュラムのひとつとして組み込むことができる強みなのです。ですから、英語に興味のある子どもたちがそこで学び、その先には、大江のロータリークラブで交換留学の制度を持っていますので、希望者が留学できるような形にしていく。ロータリークラブの話では、他の普通高校では1年間ロータリーの制度で留学すると単位はもらえずに学年据え置きとなるのですが、左沢高校は留学してもそのまま進学できるそうです。それを効果的に活用しながら、「左沢高校に入学すれば留学できるのだ」ということが定着すれば良いなと思いつつながら、今さまざまなことを県の教育委員会とやり取りをしているところです。

左沢高校の魅力化等についてはここまでとし、次のテーマに進みたいと思いつつよろしいですか。

○奥津教頭 すみません、学校での困り感として、家庭教育力の低下について危惧している部分がありますので、何かお考えがありましたらお伺いしたいと思います。

家庭教育力の低下については学校への負担になっている部分もあります。本来ならば、家庭教育で足りないところは、民生委員や民生児童委員、区や区長さんなど地域で補ってきた歴史が大江町にもあって、しかし実際はその部分も弱くなっている現実があると思うのです。困り感がある中で、民生委員や民生児童委員、区長さん方に頼れば良いのではないかとと言われても、現実にはなかなか頼れない状況も実際にあると思うのですが、それについて何かお考えがあればお聞かせ願いたいです。

○松田町長 現実的には、民生委員という大変な仕事の担い手がなかなか見つからない状況があります。ですので、民生委員の果たすべき力は、間違いなく下がっているのだらうと思います。ただ、その部分をそのままにしておけないので、今の民生委員の方々には「地域の悩み事や困り事があつたら、民生委員としての力だけで解決するのは大変過ぎるので、私どもの福祉なり子育ての担当に連絡をください」とお伝えしています。

あとは、支援の必要な子どもはご存じの通り健康福祉課で担当していますが、その部分はそれぞれが寄りかかるだけではなく、もっともっと深い話し合いをし、コミュニケーションを取らないと解決の方法は見えてこないのではないかと考えています。

家庭教育力の低下の部分については、保護者の方の考え方も昔とは随分変わっ

ていると思います。「昭和の時代は終わった」ではないですが、昭和の時代のように保護者の方々に家庭教育力の低下について説明をしてもなかなか理解してもらえないのが今の時代なのだと思います。そこをサポートできるのは、やはり行政・学校・地域などの共通認識の中で、それぞれの立場でフォローできるところをフォローしていく体制づくりが必要なように思います。いかがでしょうか。お互いに、家庭のせいだ、学校のせいだと押し付け合っているという方向性が見えないと思いますので、話をしていくには教育委員会なり福祉担当、学校、行政、公的な部分の連携をしっかりとしながら民間の方からのフォローもしていただく体制づくりが必要だと思います。その辺りについて教育長から何かありますか。

○清野教育長 はい。それは経済的な貧困のことを言っているのでしょうか、あるいは精神的な貧困のことを言っているのでしょうか。

私は、経済的な貧困という意味では、セーフティネットでかなり昔から頑張っているように逆に見えているのですが、精神的な貧困という意味では微妙なのですが、コロナ禍になって経済と精神的な貧困からなかなか抜け出せなくなっている部分は確かにあって、どのように介入していったら良いのか悩ましいところかと思えます。

コロナ禍によって浮き上がってきた課題でもあるのだらうと思っていました。私たちはまず、学校に来ている子どもたちをどのように支えていくかを考えなくてはなりません。しかし昨今、不登校の子どもたちが急激に増えているという状況もあります。不登校の子ども達がこのまま増えていったら、一体どういう大人になって生活していくのだらうかと思えます。確かに、学校という存在の枠が今、世の中を歪めているという方もいますが、学校とは一体何なのかということをごく考えます。子どもの成長を考えれば、必ずしも学校がなくとも成長するのですが、子どもにとっては、いつか社会と繋がらなくてはならない。社会と繋げる仕組みを作れるのは、やはり学校なのではないか。それは、子どもにとっては学校がひとつの社会だからです。

そういった意味で、学校で何かを仕掛けていけないと思いき、学校に来られなくて居場所が必要な子どもたちには、別に居場所づくりを進めることも必要だと考え、学校教育だけでなく社会教育も含めて事業を進めているところです。

○松田町長 そのような方向で進めていくとのことですので、今のような意見に他の先生方から何かありますか。

○建部校長 コロナ禍になってから、家庭教育で困っている親の本音を聞く機会が減りました。学校と保護者が集まって本心から率直な意見を交換する場面が、ここ数年無くなっており、PTA 会長や先生方とも、今まで上手くいっていたことも進まなくなっていると話しておりました。表面的で煩わしくなくなったと感じる一方で、心が伝わらないし、理解していただけない。ですので、交流する場面をなんとかして作っていかねばならないと最近強く思っています。そして、保護者の中には学校に強く不満を訴える方もいらっしゃるのですけれども、保護者の方は分

からない部分を何とかしたいという気持ちから言葉が強くなったり、学校で何とかしてもらいたいとの要求もあるのだと思います。一緒に考えていかないとなかなか改善されないのではないかと思いますので、できるだけ交流の場を設けたいと思っています。

○松田町長 ありがとうございます。今、学校と保護者の関係の話をしておりましてけれども、おそらく、PTA 役員の間でのコミュニケーションも形式上のコミュニケーションになってしまっていて、本音での話し合いが本当にできているのかと言われると、役員同士の中でもできていないと思う部分があるのではないかと想像します。ましてや、保護者同士ではなく、学校と保護者との関係では、もっと本音で語り合う場面がコロナでなかなかできないことが問題としてあると思います。ただやはり、前に進んでいかなければならないことは間違いないことでもありますので、大変ではありますが、力を合わせていくことをお願いしたいと思います。他に、このテーマでも結構ですし、別のことでいいのですが何か話はないですか。

○山家委員 共生教育についてよろしいでしょうか。

○松田町長 どうぞ。

○山家委員 共生教育は、素晴らしい理念だと思います。加えて、大江町は保育園からずっと、英語教育に力を入れていくとのこと大変素晴らしいことだと思っております。そこで、今、大江町にはたくさんの外国籍の若い働き手が来ていますよね。町で会うと、私達は英語で話しかけられないので、「こんにちは」と日本語で言うのです。すると、こんにちはと答えてくれるのです。これからやはり、いろいろな外国の方と付き合っていかなければならない、一緒に働いていかななくてはならないのは避けられないわけです。ですから、共生教育をもって働く若い人達と子ども達が交流するようなことを、デニスさんや、あるいは働いているところで窓口になっている人たちと何かできることはないかと思うのです。せっかく英語を学んでいるわけですので、子ども達同士で異文化を理解することにもつながるし、言葉に対する抵抗感も少なくなると思います。そうすると、大江町は外国の労働者に対してとても優しい町だとか、大江町に行くとても楽しく働けると言っていたりなどの良い影響も期待できるのではないかと思うのです。本当に元気の良い人がたくさん自転車で通りますが、この人はどんなものを食べているのだろうかとか興味が湧きますし、どんな国からどんな思いでここに来ているのか少しでも共有できて理解できたら良い町にもなっていくのではないかと感じますので、活かし方を考えていくと良いと思いました。

○松田町長 ありがとうございます。本町には、外国人登録の方が 100 人少々おります。80 人程度が就労のためにきている状況です。以前は、タイの方が多かったのですが、今はインドネシアの方が多いようです。ただ就労で来ている方との交流は、雇元の会社や派遣の関係でちょっと難しい部分もあるのかなとも思います。

ですが、先日は国際交流協会の主催事業で、米沢に避難しているウクライナの方に来ていただいて公演会を開催しました。こういうことがもっともっと広がれば

いいなと思っておりました。

○海野委員 先ほど、英語教育についての話があったと思いますけれども、学校の統廃合を考えると、学校を残しつつおこなっていく方法のひとつとして、例えばイングリッシュスクールの小学校を作ってみるのも面白いと思います。

また、中学校の部活動に英語部は今のところ無いわけですが、英語部等の部活動をとおした英語教育を取り入れてみるのもよいのではないかと思います。

さらに左沢高校の英語教育と合わせて考えると、小・中・高で一貫した英語教育ができる可能性はあると思っております。

あとは、給食の無償化についてですが、逆に無償化せずに大江町の食事はグルメだ、美味しいのだ、他よりもお金がかかっているのだという宣伝の方法もあるのではないかと思います。無償だから大江町に行きたいという考え方ではなく、美味しい給食を食べられるのだったら大江町に住みたいと思う方が豊かだと私は思います。その方が私はポジティブだと思いますので、ひとつの意見として述べさせていただきました。

○松田町長 ありがとうございます。小学校にイングリッシュスクールというのは、私も渡辺兵吾さんと一緒に仕事をしている中で、似たようなことを夢として持っております。現実的には正式な義務教育の学校としてそれを行うのであれば、法律的にもかなりハードルが高いと思うのですが、社会教育の一部として、放課後子ども教室の中で行えないかなどの道は現実的にはあると思っています。英語の活動は今、放課後子ども教室か何かであるのでしょうか？

○西田課長 今、放課後子ども教室では、英語の講座はやっておりません。(大人向けの講座としては「カフェ・デニス」を実施しております)

○松田町長 町の姿勢として、英語に興味のある子どもたちには、英語に触れる機会をもっと作っていったらどうか。これは私の考えですが、学校も英語教科としての勉強はもちろん受験のために必要なことに間違いはないですが、社会人として生きていくためには、話せる英語で理解できる英語が大切であることを第一に考えていきたい。つまり、大江町の小・中学校、高校、社会教育で学んだことがきっかけで英語が好きになり、英語を話してみたいという子どもが多くなり、英語が話せる子どもがどんどん増えていく形を私自身は考えているのです。

韓国人が英語を話せたり、この前来たウクライナの方も、英語とロシア語とウクライナ語の3カ国語話せるのに、なぜ日本人は日本語しか話せないのだろうかと思います。私自身話せないで、大きなことは言えませんが、そのような形での英語教育の推進をと思っているのですが海野さんいかがですか。

○海野委員 町をあげて「イングリッシュデー」などとして振興するような、文化的な要素があれば良いのではないのでしょうか。例えば今、子どもたちが不登校になる原因のひとつとしてタブレットやスマホの利用が挙げられます。一般的にコロナのせいになっていますが、オンライン社会が招いた結果だと私は思うのです。不登校の子どもに夜ご飯を何時頃食べているか聞くと、21時、22時なのです。生活リズム

ムが我々とは全く違うところにあるわけです。それらを踏まえていくと、親はどのようなのかというと、親もスマートフォン漬けになっていて、子どもに勉強しろと言いながら親はスマートフォンをしているのでは全く意味がないので、町をあげて読書デーなどを作って読書に非常に協力的な町にしていく流れで、イングリッシュも含めて、重要文化的景観の文化だけではない文化的な町づくりをしていくことが、先ほど言っていた、英語を皆話せるような子ども達が増える土壌になるのではないのでしょうか。そのようなものに触れ合う機会は大いに必要だと思います。

○松田町長 ありがとうございます。中学校の英語教育の課題も含め、庄司校長先生いかがですか。

○庄司校長 英語教育については、ブリティッシュヒルズの研修に私も参加させていただいて、あの時の子どもたちの目の輝きや、今まで自分たちが学んできたことがどれくらい通用するのか知るきっかけなど、機会をひとつひとつ与えてあげるとはとても大事だと思います。そしてそれは、授業でも大いに活かされます。ですのでブリティッシュヒルズ研修のような取り組みは続けてほしいと思います。

○松田町長 ありがとうございます。清野教育長、どうぞ。

○清野教育長 ブリティッシュの前がTGGだったのですけれど、校長になった時に子どもたちのために何かやりたいと思っていました。それまでは4～5人が実際に外国に行く形の事業があったのですが、選ばれた少人数だけでなく全員を何とかして連れていけないだろうかと各方面と話をし、実施までこぎ着けたのを思い出します。

○松田町長 私が以前、教育委員会にいた頃に小学校での英語の教科化という方針が出されたと思うのですが、あの当時小学校の先生方は、自分にはできない、できるわけがない、難しいですと話されているようでした。今の学校の現状はどのようなのでしょうか。現在はひとつの教科になってしまっていますから、やらざるを得ない状況になっているかもしれませんが、建部校長先生どうなのですか。

○建部校長 今も先生方によって差はありますね。苦手意識を持っている先生の方が多いと思っております。ですので、この話とは少しズレるかもしれませんが、町の方針として小学校低学年から英語に触れる事業等をしていただくと良いなと思うのは、小さい頃から英語を学び語学に対する抵抗がなくなるということもあると思うのですが、驚いたときなどの表現力を低学年のうちから身につけることができるのはとても素晴らしい思いました。

○松田町長 ありがとうございます。山形新聞の記事で、朝日町の生徒が修学旅行でブリティッシュヒルズに行き、その後報告会を実施したというニュースがあったと思いますが、朝日町では全員行っているのでしょうか。

○西田課長 修学旅行でブリティッシュヒルズに行くのは、小学校だと思います。ただし大江町のように英語漬けの勉強をするわけではなく、旅行の研修先のひとつとして立ち寄るものです。朝日町の中学生もブリティッシュヒルズに行きますが、本町

の教育委員会で以前実施していた海外研修と同じで、選抜して選ばれた数名の生徒が行くスタイルだったと思います。

○松田町長 ということは、報告会をしていた子どもたちもその選抜チームの中の人ということですね。

○西田課長 はい。この前、新聞記事に載っていたのはそういうことだと思います。

○松田町長 町民に自分たちの成果を報告するというのも、子どもたちの発表の場をつくるという意味ではいいやりかたなのではないかと思います。そのような発表の場があるから頑張れる。保護者や町民の人が興味を持って、そのような方向に向かっているのだと認識してもらえる場もあったらいいのではないかと思います。

○鈴木校長 英語の学習に毎時間デニス先生が来てくださるのはすごくありがたいと思います。ネイティブの発音を聞くことができますし、先ほどもありましたように、外国の方は表情も豊かで、挨拶する時も大きな表現をしてくれるので、そのようなものに小さいうちから触れられるのは大きいと思っています。廊下でデニス先生とすれ違くと、デニス先生も挨拶してくれるので、デニス先生のような英語の先生が学校に身近にいるのはすごく大きいと思っております。

○松田町長 ありがとうございます。やはり、ネイティブの発音や表現に触れるのは正解なのだとは思っています。私自身も、昔だったら外国人を見たら一歩遠ざかるような状態でしたが、1人、2人と自宅に留学生を受け入れているうちに、話せば怖い人ではなくコミュニケーションが取れるのだということ学びました。

さて最後に、まだ話していない人が2人いるので話してもらっていいですか。テーマに縛られず、何でもいいですので。

○田代教頭 今日はいろいろと刺激的な話を聞かせていただいてありがとうございます。英語教育のことですけれども、デニス先生からは授業以外でも、例えばお昼休みに読み語りなどをしていただいています。子どもたちが英語に触れる機会が増えたと思っておりますので本当にありがたいことだと思います。

先ほど、福島のブリティッシュヒルズなど様々な所に行く機会を増やしていただいているとのことだったのですけれども、町の子どもたちだけのイベントではなく、「ぜひ英語教育を頑張っている大江町に行って英語学習を体験したい！」と他市町村の人々が思うような企画が何かできると、町の発展につながるかもしれないなど、お話を聞いて思ったところです。

○荒井教頭 清野教育長の話の中で、共生教育の推進に係るところで「異文化、多様性を理解するための英語教育」の話がありました。藤田の丘分校に来る子どもたちも、その生活実態が多様化してきております。子どもたちの多様性を、私たち大人がまるごと受容できるような対応が日々できているかについて改めて、その言葉で私自身を振り返ったところでした。昭和の頃は保護者の方が学校をサポートしてくださっていたのですが、今は私たちがお母さんのこともサポートしないと、分校にいる子どもたちが家庭に戻ってからなかなか上手くいけません。

英語とは少し離れてしまいましたが、そのようなところを分校に活かしていけ

たらと思いながら今日、学ばせていただきました。どうもありがとうございました。

○松田町長 ありがとうございます。保護者が学校をサポートしてきた時代から、今は学校が保護者をサポートする時代になったという話は、先ほど大江中学校の教頭先生からもあった家庭教育力の話にもつながるのではないかと思います。

時代が変わっている中で、公は公として取り組んでいかなければならない課題だと捉えて進んでいくしかないと思います。そのためには、このような会議の中で知恵を合わせていくことが大事だということを申し上げ、まとめとさせていただきます。本日はありがとうございました。

○西田課長 長時間にわたり貴重な意見を賜ったことに感謝の言葉を述べ、総合教育会議の意見交換を閉じた。

○松田町長 本日はさまざまなご意見をいただきましたが、最初に申し上げたとおり何かの課題について結論を出すような会議ではないと思っています。私自身今日はとても勉強になりましたので、今後につなげていくよう、学校現場は勿論ですが、教育委員さん方の意見を今後も強く出していただいで、大江町の教育、子育てに結び付けていきたいと考えています。

本日は誠にありがとうございました。

◎閉会

○西田教育文化課長 令和4年度大江町総合教育会議を終了することを告げた。

閉会 午後5時00分